

2022 年 7 月 10 日（日）施行

第 207 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解答

第 1 問

1	直接材料費	2	間接材料費	3	間接労務費
4	間接経費	5	直接労務費		

第 2 問

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1	材 料	510,000	現 金	110,000
			買 掛 金	400,000
2	仕 掛 品	448,800	材 料	459,000
	製 造 間 接 費	10,200		
3	仕 掛 品	260,000	賃 金	295,000
	製 造 間 接 費	35,000		
4	製 造 間 接 費	150,000	賃 金	150,000
5	製 品	1,200,000	仕 掛 品	1,200,000
6	当 座 預 金	300,000	売 上	1,620,000
	受 取 手 形	1,320,000		
	売 上 原 価	1,200,000	製 品	1,200,000

第3問

直接材料費

月初仕掛品	？ 個	¥ 21,600	当月完成品	4,900 個	(¥ 293,850)
当月投入	？ 個	¥ 290,400	月末仕掛品	？ 個	(¥ 18,150)

加工費

月初仕掛品	？ 個	¥ 20,210	当月完成品	4,900 個	(¥ 393,010)
当月投入	？ 個	¥ 384,800	月末仕掛品	？ 個	(¥ 12,000)

第4問

①	ア	②	オ	③	ウ	④	イ	⑤	エ
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

第5問

原価計算表

(単位：円)

指図書番号 摘要	#48	#49	#50	合計
月初仕掛品原価	(427,500)	——	——	(427,500)
直接材料費	(36,000)	(279,450)	(219,600)	(535,050)
直接労務費	(108,000)	(264,000)	(48,000)	420,000
製造間接費	(153,000)	(374,000)	(68,000)	595,000
合計	(724,500)	(917,450)	(335,600)	(1,977,550)
備考	完 成	完 成	仕 掛 中	

2022 年 7 月 10 日（日）施行

第 207 回 全経簿記能力検定試験 2 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 工場の作業員が原料として消費したトウモロコシの金額は、その製品の主要材料となるため直接材料費となる。
2. 工場の作業員が製造作業で用いるゴム長靴の消費額は、直接製品の製造にかかる材料費ではないため、間接材料費となる。
3. 工場の事務員が直接工の賃金計算作業を行った時間に対する賃金消費額は、事務員が製品の製造に直接携わっている賃金ではないため、間接労務費となる。
4. 工場の事務員が本社に書類を送付するさいに要した切手代は、直接製品の製造にかかる経費ではないため、間接経費となる。
5. 工場の作業員が製造用機械の準備作業に要した時間に対する賃金消費額は、製品を製造するにあたっての段取時間であるため、直接労務費となる。

第 2 問

1. 素材を購入し、購入手数料を支払った場合は、付随費用として購入原価に含める。

$$\begin{aligned} \text{購入原価} &= \text{購入代価} + \text{付随費用} \\ &= ¥500,000 + ¥10,000 \\ &= ¥510,000 \end{aligned}$$

代金¥500,000のうち¥100,000はかねて受け取っていた得意先振出しの小切手で支払ったので、現金勘定を用いて処理をする。また、購入手数料¥10,000は現金で支払ったので、金額は合算し¥110,000を記入する。残額¥400,000は翌月末に支払うこととしたので、買掛金勘定を用いて処理をする。
2. 出庫した素材 450 kgのうち、10 kgは工作用機械の修繕用であり間接材料費となるため、材料勘定から製造間接費勘定へ振り替える。残りの 440 kgは、直接材料費として材料勘定から仕掛品勘定へ振り替える。

$$\begin{aligned} \text{上記 1 で購入した素材の購入単価} &= \text{購入原価} ¥510,000 \div 500 \text{ kg} = ¥1,020 \\ \text{間接材料費} & ¥1,020 \times 10 \text{ kg} = ¥10,200 \rightarrow \text{製造間接費勘定へ} \\ \text{直接材料費} & ¥1,020 \times 440 \text{ kg} = ¥448,800 \rightarrow \text{仕掛品勘定へ} \end{aligned}$$
3. 当月の直接工による作業時間のうち、加工作業に要した時間、段取り作業に要した時間の賃金消費額は、直接労務費となるため、賃金勘定から仕掛品勘定へ振り替える。また、直接工の間接作業時間、手待時間の賃金消費額は間接労務費となるため、賃金勘定から製造間接費勘定へ振り替える。

$$\begin{aligned} \text{直接労務費} & \text{ 実際消費賃率} ¥1,000/\text{時間} \times (\text{加工作業 } 250 \text{ 時間} + \text{段取り作業 } 10 \text{ 時間}) \\ & ¥1,000 \times (250 \text{ 時間} + 10 \text{ 時間}) = ¥260,000 \rightarrow \text{仕掛品勘定へ} \\ \text{間接労務費} & \text{ 実際消費賃率} ¥1,000/\text{時間} \times (\text{間接作業 } 30 \text{ 時間} + \text{手待時間 } 5 \text{ 時間}) \\ & ¥1,000 \times (30 \text{ 時間} + 5 \text{ 時間}) = ¥35,000 \rightarrow \text{製造間接費勘定へ} \end{aligned}$$

4. 当月の間接工に対する賃金消費額を計上する場合、間接労務費となるため、賃金勘定から製造間接費勘定へ振り替える。

賃金消費額の計算 当月の間接工に対する賃金支払額 + 当月未払額 - 前月末払額
 ¥145,000 + ¥35,000 - ¥30,000 = ¥150,000

5. 製品が完成した場合、同製品を製造するために要した製造原価¥1,200,000は、仕掛品勘定から製品勘定へ振り替える。

6. 上記5の製品を製造原価¥1,200,000に35%の利益を加算した金額（代金）の計算は以下の通りである。

代金の計算 ¥1,200,000 × 1.35 = ¥1,620,000

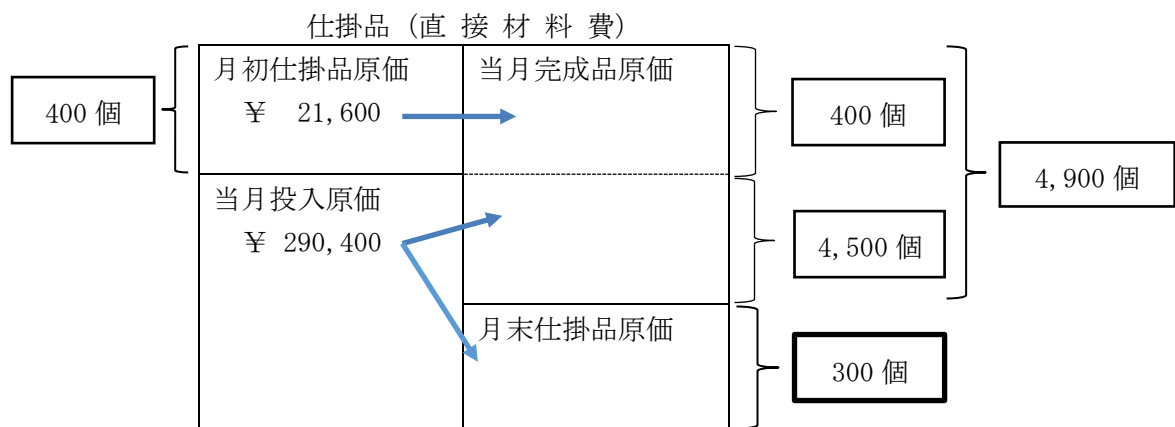
代金¥1,620,000のうち¥300,000は当社振出しの小切手で受け取った場合、当座預金勘定を用いて処理をし、残額¥1,320,000は約束手形を受け取ったので、受取手形勘定を用いて処理をする。

また、製品¥1,200,000を顧客に引き渡し、同時に売上原価を計上する場合は、製品勘定から売上原価勘定へ振り替える。

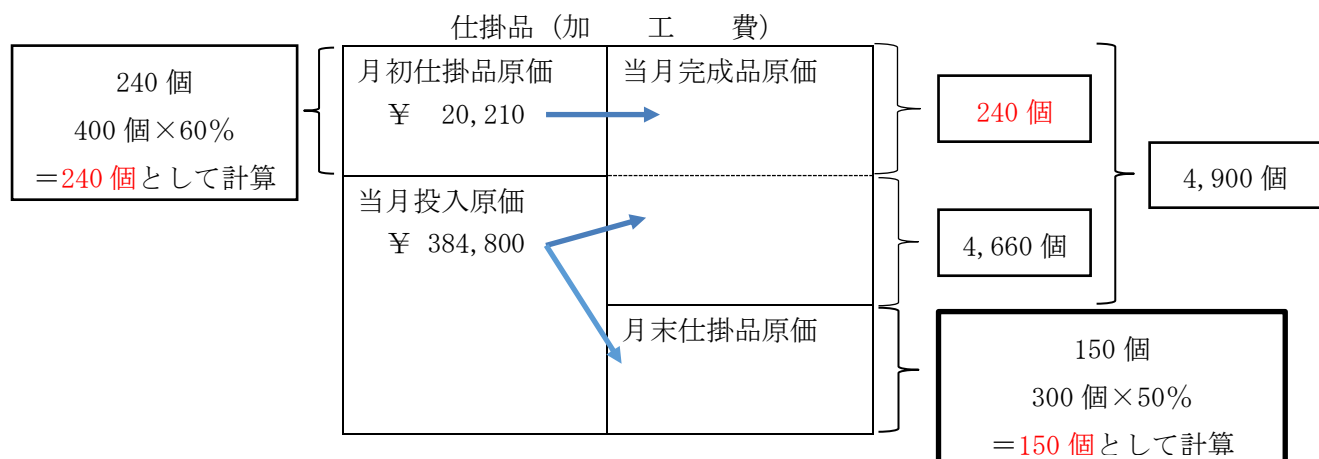
第3問

月末仕掛品原価と当月完成品原価を求める。

材料はすべて工程の始点で投入 月末仕掛品の評価は先入先出法によって計算



月末仕掛品原価 ¥290,400 ÷ (4,500 個 + 300 個) × 300 個 = ¥18,150
当月完成品原価 ¥21,600 + ¥290,400 ÷ (4,500 個 + 300 個) × 4,500 個 = ¥293,850



月末仕掛品原価 ¥384,800 ÷ (4,660 個 + 150 個) × 150 個 = ¥12,000
当月完成品原価 ¥20,210 + ¥384,800 ÷ (4,660 個 + 150 個) × 4,660 個 = ¥393,010

第4問

- ① 材料勘定から製造間接費勘定への振り替えをあらわしているため、「ア. 工場消耗品の消費額」が適当である。

(借)	製 造 間 接 費	(貸)	材 料
-----	-----------	-----	-----

- ② 賃金勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわしているため、「オ. 直接作業時間に対する賃金消費額」が適当である。

(借)	仕 掛 品	(貸)	賃 金
-----	-------	-----	-----

- ③ 製造間接費勘定から仕掛品勘定への振り替えをあらわしているため、「ウ. 当月に各製品に振り替えられた製造間接費の配賦額」が適当である。

(借)	仕 掛 品	(貸)	製 造 間 接 費
-----	-------	-----	-----------

- ④ 製品が完成すると製造原価は、仕掛品勘定から製品勘定に振り替える。当月に未完成の製品に対する原価は、次月繰越として、次の月へ繰り越すこととなる。

したがって、「イ. 当月に未完成の製品に対する原価」が適当である。

- ⑤ 製品勘定から売上原価勘定への振り替えをあらわしているため、「エ. 当月に顧客に引き渡した製品の原価」が適当である。

(借)	仕 掛 品	(貸)	賃 金
-----	-------	-----	-----

第5問

材料元帳

(移動平均法)

Z材料

(単位：円)

日付	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
6	1 前月繰越	50	1,200	60,000				50	1,200	60,000
	2 出庫(#48)				30	1,200	36,000	20	1,200	24,000
	3 仕入	300	1,216	364,800				320	1,215	388,800
	7 出庫(#49)				230	1,215	279,450	90	1,215	109,350
	18 仕入	150	1,223	183,450				240	1,220	292,800
	25 出庫(#50)				180	1,220	219,600	60	1,220	73,200
	30 次月繰越				60	1,220	73,200			
		500		608,250	500		608,250			

製造指図書番号 #48 < 前月より製造着手、当月完成、当月引き渡し >

月初仕掛品原価 問題文2【当月の月初有高】仕掛品（#48）：¥427,500

直接材料費 問題文4【当月の材料元帳】作成により6月2日出庫した金額 ¥36,000

直接労務費 解答用紙【原価計算表】直接労務費合計、問題文5より

$$¥420,000 \div (90 \text{ 時間} + 220 \text{ 時間} + 40 \text{ 時間}) \times 90 \text{ 時間} = \underline{¥108,000}$$

製造間接費 解答用紙【原価計算表】製造間接費合計、問題文6直接作業時間を基準により

$$¥595,000 \div (90 \text{ 時間} + 220 \text{ 時間} + 40 \text{ 時間}) \times 90 \text{ 時間} = \underline{¥153,000}$$

合計 ¥427,500 + ¥36,000 + ¥108,000 + ¥153,000 = ¥724,500

製造指図書番号 #49 < 当月より製造着手、当月完成、当月引き渡し >

直接材料費 問題文4【当月の材料元帳】作成により6月7日出庫した金額 ¥279,450

直接労務費 解答用紙【原価計算表】直接労務費合計、問題文5より

$$¥420,000 \div (90 \text{ 時間} + 220 \text{ 時間} + 40 \text{ 時間}) \times 220 \text{ 時間} = \underline{¥264,000}$$

製造間接費 解答用紙【原価計算表】製造間接費合計、問題文6直接作業時間を基準により

$$¥595,000 \div (90 \text{ 時間} + 220 \text{ 時間} + 40 \text{ 時間}) \times 220 \text{ 時間} = \underline{¥374,000}$$

合計 ¥279,450 + ¥264,000 + ¥374,000 = ¥917,450

製造指図書番号 #50 < 当月より製造着手、翌月完成予定、翌月引き渡し予定 >

直接材料費 問題文4【当月の材料元帳】作成により6月25日出庫した金額 ¥219,600

直接労務費 解答用紙【原価計算表】直接労務費合計、問題文5より

$$¥420,000 \div (90 \text{ 時間} + 220 \text{ 時間} + 40 \text{ 時間}) \times 40 \text{ 時間} = \underline{¥48,000}$$

製造間接費 解答用紙【原価計算表】製造間接費合計、問題文6直接作業時間を基準により

$$¥595,000 \div (90 \text{ 時間} + 220 \text{ 時間} + 40 \text{ 時間}) \times 40 \text{ 時間} = \underline{¥68,000}$$

合計 ¥219,600 + ¥48,000 + ¥68,000 = ¥335,600